

# マイボーム腺機能不全関連後部眼瞼炎へのアジスロマイシン点眼液の多施設での有用性

有田 玲子<sup>1,2)</sup>, 福岡 詩麻<sup>2,3)</sup>, 川島 素子<sup>2,4)</sup>

伊藤医院<sup>1)</sup>, LIME研究会<sup>2)</sup>, 大宮はまだ眼科西口分院<sup>3)</sup>, 久喜かわしま眼科<sup>4)</sup>

【目的】アジスロマイシン点眼（AZM点眼）はマクロライド系抗菌薬で、抗菌作用だけでなく、抗炎症作用があることも報告されており、眼瞼への移行性・滞留性が高い薬剤である。今回、AZM点眼のマイボーム腺機能不全（MGD）関連後部眼瞼炎に対する多施設での有用性を検討した。

【対象と方法】対象は2019年11月から2020年3月までの間に伊藤医院、大宮はまだ眼科西口分院、久喜かわしま眼科を受診したMGD関連後部眼瞼炎患者。AZM点眼を2週間処方した。検査項目は眼自覚症状（SPEED）、眼瞼縁所見（Plugging, Vascularity, Foaming）、涙液層破壊時間（BUT）、角結膜上皮障害、涙液メニスカス高、マイバムグレード、マイボスコア、シルマーテスト。検査は処方前、2週間後、1か月後に行った。副作用についても検討した。

【結果】患者は39名39眼（平均年齢 $59.7 \pm 16.0$ 歳）。処方前と比べて処方2週間後、1か月後ともに、SPEED、Plugging、Vascularity、BUT、角結膜上皮障害、マイバムグレードが有意に改善した（各 $p < 0.001$ ）。Foamingは1か月後に有意に改善した（ $p = 0.046$ ）。AZMアレルギーで1名脱落した。27眼（71.0%）が眼刺激感を訴えたが、3日目から改善した。

【結論】AZM点眼はMGD関連後部眼瞼炎患者の眼自覚症状、マイボーム腺、涙液油層関連因子を改善し、処方終了後も効果が持続した。AZM点眼は眼刺激感を訴えるが、数日で改善が見込め、MGD関連後部眼瞼炎に対して有効な点眼液と考えられた。

---

【利益相反公表基準：該当】有

【IC：取得】有

【倫理審査：承認】有